オバボタル

成虫は昼間活動し、光らない。もっとも普通に見られる昼行性ホタル。

飛び立つ直前のオス（三田市）
アンテナでフェロモンを感知する

オバボタルのメス（神戸市北区）
オスに比べてアンテナは細く短い

オバボタル（姥螢）

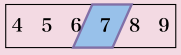
Lucidina biplagiata

体長 10mm 前後で、平たく幅の広いアンテナが特徴。天気のよい日に活発に飛び回り、葉上にとまっているときは、アンテナがよく目立つ。他のホタルより乾いた林にも見られ、林縁に多い。

幼虫は地表にすみ、小動物を食べるらしい。強く発光するが、成虫とは裏腹に、幼虫を目にする機会はほとんどない。ボロボロになったしいたけのほだ木の下が狙い目だそうだ。

見られるとき・ところ

6月上旬〜7月下旬

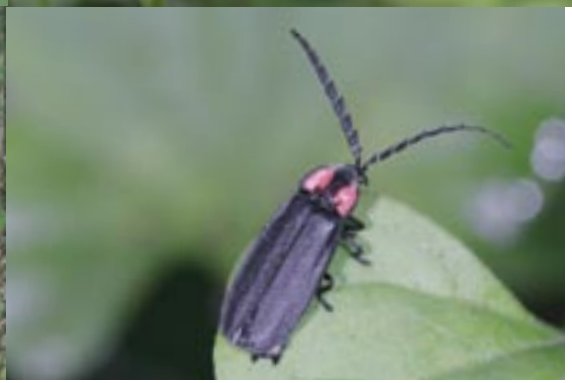


いろんなホタルが見られる谷筋のスギ林（養父市）
この場所では、6月下旬、昼間にオバボタル、オオオバボタル、ムネクリイロボタル、カタモンミナミボタルが、夜間にはゲンジボタル、ヒメボタル、マドボタルの幼虫が観察された。ホタルミミズも生息していた。

オオオバボタル

成虫は昼間活動し、光らない。ゲンジボタルのつぎに大きいホタル。

ドクダミの葉上の2匹のオス（八王子市）



オオオバボタルのオス（八王子市）
オバボタルに比べ、紅色の部分が広く、色鮮やか。メスは、オバボタルと同じく、アンテナが細く短い。

オオオバボタル（大姥螢）

Lucidina accensa

体長 13〜15mm で、ゲンジボタルについで大型の種。胸のあざやかな紅色がよく目立つ。

山地に多い種で、県南部にはほとんど見られない。オバボタルに比べて自然の豊かな林にすみ、オス、メスともに、林の縁を活発に飛び回る。

幼虫は朽ち木の中にすみ、カミキリムシの脱出孔に、おしりを出口に向けて入っているという。小動物を食べ、黄緑色の光で強く発光する。

見られるとき・ところ

6月下旬〜7月下旬

ムネクリイロボタル

成虫は光らない。アンテナがかわいいホタル

ムネクリイロボタルのオス（熊本市）
アンテナが発達している

ムネクリイロボタルのメス（養父市）

ムネクリイロボタル（胸栗色螢）

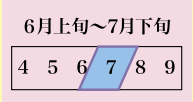
Cyphonocerus ruficollis

体長 7〜8mm。名のとおり胸部が栗色（オレンジ色）。アンテナがくし状になっているのが特徴。よく繁った森にすみ、。夕方によく活動するようだ。

幼虫は地表の湿った落ち葉の間にすんでいて、巻貝などを食べる。黄色っぽい光で、やや弱いがよく発光し、数秒から十数秒ごとに、光っては消えをくり返す。

見られるとき・ところ

6月上旬〜7月下旬



ムネクリイロボタルの見られる林道（宍粟市）
薄暗い道によく見られる

成虫は光らない。小さくて目立たないホタル

カタモンミナミボタル

葉上にちょっこんととまる（三木市）
オスもメスもほぼ同じ

カタモンミナミボタルの見られる小道（上郡町）
各地の雑木林にふつうに見られる

カタモンミナミボタル（肩紋南螢）

Drilaster axillaris

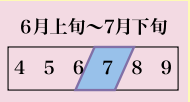
体長 5〜6mm。小型で、肩の部分にオレンジ色の斑紋がある。小さくて目立たない虫で、ホタルのなかまとは思えない外観をしている。

よく繁った森の中の下草の上などに見られ、林の外に出てくることはあまりない。

幼虫は地表にいるが、刺激に敏感で、人が近づくと発光をやめ、一瞬の光を見逃さないとつかまえられないという。

見られるとき・ところ

6月上旬〜7月下旬



スジグロボタルの交尾（香美町）
メスはアンテナがやや短い

スジグロボタル（神河町）
ベニボタルの仲間に似ている

スジグロボタル（条黒螢）

Plystolycus sagulatus

体長 8〜9mm。ピンク色がよく目立つ美しい種類。湿原に生息し、葉上にいるが、晴れた日には、オスメスともに飛んでいる姿、交尾している姿をよく見かける。

幼虫は湿地の地表にすみ、カワニナなどを食べる。黄色い光でよく発光し、数秒から数十秒ごとに、１、２秒間の発光をくりかえす。

スジグロボタルのすむ湿原（香美町）

見られるとき・ところ

6月下旬〜7月中旬

4	5	6	7	8	9

現在知られている生息地は、香美町と神河町のみ。

オバボタルのさなぎ
撮影：皆越ようせい

ヒメボタルのさなぎ
どのホタルも、さなぎは強く光る

ホタルの幼虫たち

1 **ゲンジボタル**　水中にすみ、ぷよぷよ。さわると丸まる。ヘイケボタルもよく似ている。
2 **ヒメボタル**　平べったい。体色には変異があり、黒いものもある。
3 **マドボタル**　シャクトリムシのように歩く。クロマドとオオマドは区別できない。
4 **オバボタル**　腹端の吸盤が発達している。オバとオオオバは区別できない。
5 **ムネクリイロボタル**　体はかたく、つやがある。ヤスデに似ていて、よく丸まる。
6 **カタモンミナミボタル**　やわらかく、つやがある。よく伸び縮みする。
7 **スジグロボタル**　体は平たく、ヒメボタルに似ている。各節の黄色い斑点が目立つ。

幼虫、さなぎはなぜ光る？

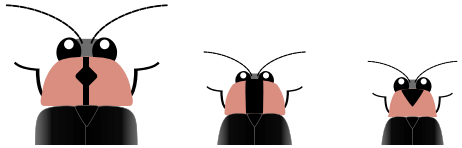
ホタルは、体内に有毒物質（捕食者がいやがる臭いなど）を持っているといわれている。幼虫やさなぎが光るのは、そのためだと考えられている。ホタルは、光ることで「ボクは食べたらまずいよ」と主張しているのだ。そのうちの一部の種類が、成虫のオスとメスの交信にも、光を利用している。

ホタル図鑑

兵庫県で見られる 10 種のホタルを紹介しています

♂ ♀

ゲンジボタル



ゲンジ
体が大きい
黒いスジは細く
途中に黒斑

ヘイケ
胸部は丸くふくらむ
黒いスジは太い

ヒメ
胸部は平たい
黒いスジは逆三角形
（変異がある）

成虫が光る3種のホタルの見わけかた

ヘイケボタル

（大阪平野産）

ヒメボタル

（丹波市産）

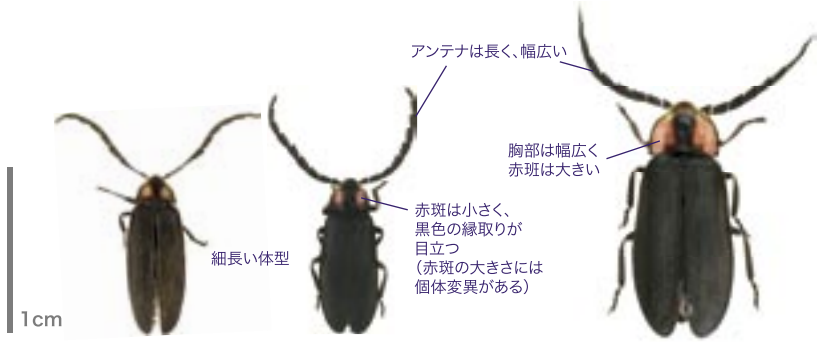
♀

クロマドボタル

← どちらともいえない中間的な個体 →

オオマドボタル

マドボタル属のメス



オバボタル

オオオバボタル

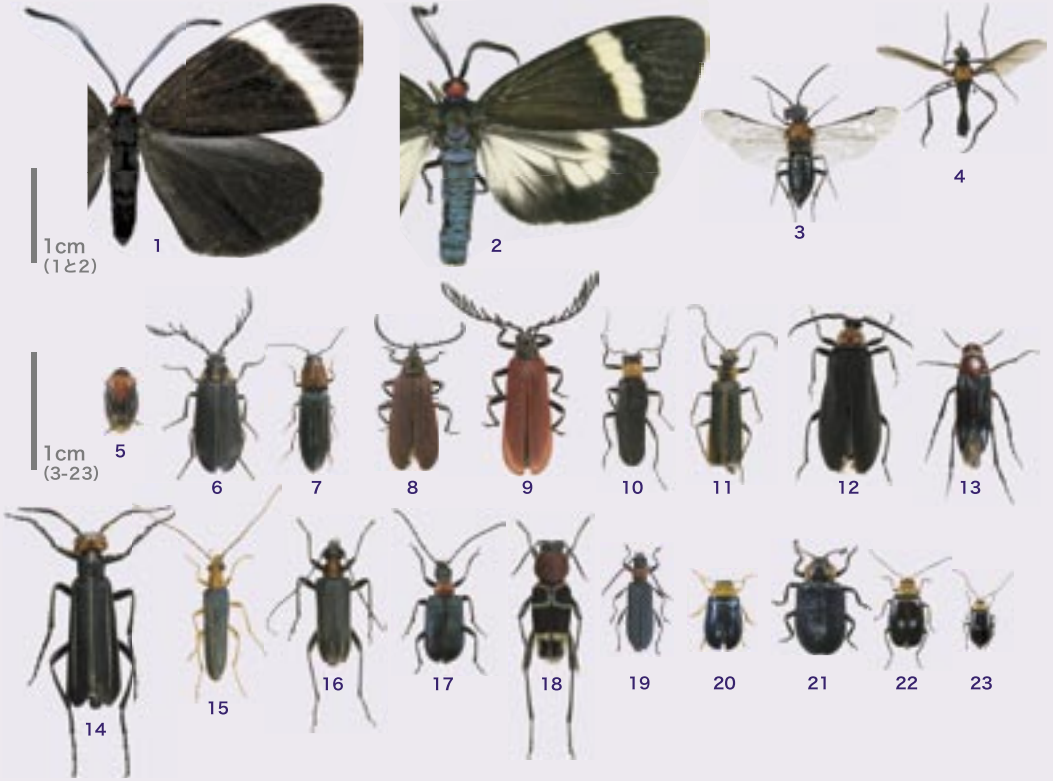
ムネクリイロボタル

カタモンミナミボタル

スジグロボタル

おまけ・・・ホタルな虫

頭が赤い「ホタルカラー」の虫、ホタルに近縁な虫を集めてみました



1 ホタルガ
2 シロシタホタルガ
3 オオムネアカハバチ
4 ヒメセアカケバエ
5 ムネアカアワフキ
6 ヒゲナガハナノミのなかま
7 ヒメクロツヤハダコメツキ
8 ベニボタル
9 ベニボタルのなかま
10 ムネアカジョウカイのなかま
11 クビボソジョウカイ
12 ムネアカクロアカハネムシ
13 オスグロオオハナノミ
14 マメハンミョウ
15 アオカミキリモドキ
16 キベリクロヒメハナカミキリ
17 クビアカドウガネハナカミキリ
18 クビアカトラカミキリ
19 ホタルカミキリ
20 ムナキルリハムシ
21 クルミハムシ
22 ウリハムシモドキ
23 ホタルハムシ

Memo

プチ図鑑　兵庫の螢

著　者　八木　剛

協　力　小原　玲（ホタル撮影指導）
足立　勲・安岡拓郎・皆越ようせい（写真提供）
小俣軍平（陸生ホタル情報提供）
金田佳代子（表紙デザイン・写真撮影）
澤 七緒子（表紙デザイン）

発行日　平成十八年（2006年）十月一日

発行者　兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546　三田市弥生が丘６丁目
電話 079-559-2001（代）
http://hitohaku.jp

印　刷　ウニスガ印刷（株）

（文部科学省地域こども教室推進事業）

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明りて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は、夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

秋は、夕暮れ。夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへあはれなり。まいて、雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬は、つとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず。霜のいと白きも、またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりて、わろし。

清少納言（枕草子）

兵庫県立 人と自然の博物館
Museum of Nature and Human Activities, Hyogo
http://hitohaku.jp
18教Ⓟ1-013A5

Designed by 金田 佳代子・澤 七緒子